

生涯学習支援プロジェクト

幅広い年齢層を対象に、情報格差を解消するための多様な生涯学習プログラムを実施しています。



大学キャンパスに招いて行った講座最終日の授業風景

活動の概要

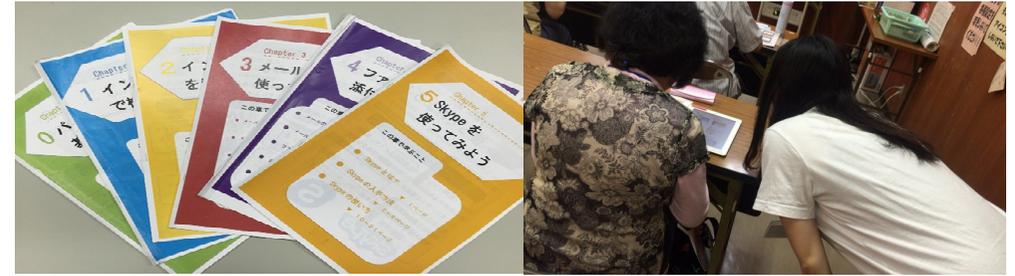
目的	地域内の情報格差の解消 / 情報機器能力向上による豊かなくらしの実現
連携メンバーおよび役割	高槻市今城塚公民館…授業内容や対象年齢層の検討にかかる学生との協働 生涯学習支援プロジェクト学生…企画提案、教材作成、当日授業 関西大学総合情報学部 久保田・黒上研究室の院生…プロジェクトの進捗状況の管理、学生に対するアドバイス
活動地域	高槻市今城塚公民館 (大阪府高槻市)
活動期間	2009年～(継続中)

連携の経緯

本プロジェクトの前身はフィリピンにおいてボランティア活動を行うプロジェクトであり、その活動の中で、学生は海外における多様な社会問題を目の当たりにした。この経験は学生の目を国内の社会問題に向けさせる契機となり、数人のメンバーによって現在のプロジェクトが発足した。プロジェクトメンバーは専門分野を活かせるテーマとして「地域の情報格差」を設定。幅広い年齢層を繋げる拠点である公民館との協議を経て、活動を開始した。

解決すべき課題

- (1) 地域内のさまざまな年齢層における情報格差を解消する各種コンテンツの企画と実行



授業で使う資料

公民館での個人サポート対応

大学の役割

本プロジェクトは、デジタルデバインド(※)の解消に焦点を当て、パソコンやタブレットの操作などに関して学生が主体となって地域住民に向けた授業を行う活動である。授業は地域の方々との交流の場としても位置付けされており、楽しく授業を受講してもらえるよう工夫を取り入れている。

対象は、主に60代以上の高齢者の方で、毎週日曜日に今城塚公民館で質疑応答を含め、約2時間30分の講座を行っている。また、その他の年齢層に向けた活動として、公民館が年に2回程度開催することもまつりに参加し、中学生以下の児童生徒へも授業を行う他、芥川高校のPTAの方(30代以上の主婦(夫)の方)向けに月1回のパソコン講座にも取り組んでいる。

「受講生のニーズ」に意識して授業を構成した結果、受講者の方からの評価も高く、アンケートでは積極的に家で使ってみたという声が上がった。一方で、あまり理解できていない部分があるという声も寄せられており、受講者の追跡調査を実施することも展望として挙げられる。また、タブレット・パソコン使用時、授業で使用する機器と受講生の所持する機器の種類が異なるという課題が表出したため、その点についても改善を要する。

本プロジェクトは2009年からの継続事業だが、年度ごとに新たな取り組みに着手することで良い成果を得られており、さらに改善を加えながら継続することを考えている。

※デジタルデバインド…コンピュータやインターネットなどを使いこなす人とそうでない人の間に生じる格差

成果

- (1) タブレットを使用した講座により、当該機器の操作技術が向上
- (2) 机を向かい合わせにした授業形態での実施により、地域住民間のコミュニケーションが円滑化
- (3) ニーズ調査(どのようなアプリを使用したいか)により、受講生の実生活での利便性が向上

今後の展望

- 展望 (1) タブレットの講座時は、日常生活に使えるアプリに重点を置いた内容で継続実施する
(2) アンケート調査に加えインタビュー調査を行い課題を明確化する
(3) 家でも使いたいと思わせる資料を作成する

課題 (1) 授業で使用する機器と受講生の所持する機器の種類が異なるケースがあるため対処法を検討する

現場の声



・生駒明子(4年生)

新たな取り組みをして、その成果が受講生の方にとって有益になることがとても嬉しいし、今後のモチベーションにもつながります。また、受講生同士のコミュニケーションの場としても利用してもらい、少しでも地域活性化という点でも協力していきたいと思えます。

研究者の紹介



総合情報学部
久保田・黒上研究室
(くぼた・くろかみけんきゅうしつ)

大学院の課題研究科目「ICTと新しい教育」を担当する久保田賢一、久保田真弓、黒上晴夫の3名の教員と大学院生がアクティブラーニングをテーマに活動する研究室です。フィールドでの体験を重視した学習活動を展開し、学部生と連携した活動を進めています。研究室には、国内外で地域の人々と協働した課題解決に向けた活動に取り組むさまざまなプロジェクトがあります。